家庭数配付　　かがやけ太陽の子　「　友情　努力　笑顔　」

学校だより　　新潟市立江南小学校　　令和４年７月22日

江南の子

令和４年度
第５号

失敗や揉(も)め事は成長のチャンス

校 長　　藤 井　正 人

「友達と協力するということがものすごく大切なのが分かりました」。ゆいぽーと体験教室の振り返り作文で，多くの５年生がそう記述していました。この活動の目的が確実に達成されたことをうれしく思います。

本日をもって令和４年度の教育活動前期前半が終了しました。相変わらずのコロナ禍でしたが，全学年において計画していた教育活動を概ね順調に遂行することができました。保護者・地域の皆様のご協力とご支援に心より感謝申し上げます。

特に前期前半の大きな活動である運動会，６年生会津修学旅行，５年生ゆいぽーと体験教室が，令和元年度末段階で構想していた内容・期日通りに実施され，所期の目的が達成できたことは大きな成果でした。コロナ禍の令和２・３年度に余儀なくされた変更・縮小・制限という試練を経ての達成ということで，安堵感もひとしおです。

冒頭で紹介したゆいぽーと体験教室の振り返りでは，次のような一節もありました。**「自分の考えを友達に話すことが大切で，そのことで友情が深まる」**。この児童は，ゆいぽーとでの様々な活動を通して，この貴重な気付きを得たのでしょう。

この気付きを少し深掘りします。活動の中で「自分の考えを友達に話す」とどうなるか。

Ａ：自分の考えが友達に受け入れられて，気分よくスムースに活動を進める。
Ｂ：友達と考えが違っていたけれど，話し合い，折り合いを付けて納得して活動を進める。
Ｃ：友達と考えが違っていて，折り合いもつけられず，揉め事になって活動が停滞する。

それでは，以上の３つの中で，教育的に最も価値がある，つまり友情が最も深まる可能性が高いのはどの状況か？　この問いに対する考え方に，その人の教育観が表れます。

東京にある私立中高一貫校 品川女子学院の漆 紫穂子理事長は，入学説明会で次のように保護者に宣言するそうです。**「うちは失敗と揉め事を提供する学校です」**と。この言葉の裏には，「失敗や揉め事を通して必ずお子さんを成長させてみせます」という揺るぎない信念と自信があるのでしょう。

さすがに公立校の私達はここまで腹を括ったことは言えません。まずは，子どもたちが失敗しないように活動を綿密に計画し，活動中は揉め事が起きないようにきめ細かく指導や支援をします。しかしながら，どんなにそうしても，失敗や揉め事が起こるのが日々の教育現場です。その時に**「失敗や揉め事は成長のチャンス」**と意味付けて，真摯に子どもと向き合い，対応するということは，全職員が共通にもっている教育観です。

前期前半も，学校生活では失敗や揉め事・トラブルがたくさんありました。その度に，保護者の皆様にはご心配をお掛けしました。ただ，上の教育観にご理解を示してくださる方が多くいらっしゃることに感謝しながら，明日からの夏休みを迎えたいと思います。